

2016年4月25日発行

# 地域と協同の 140号

## 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

### 熊本・東北・富士山の自然災害に思いを寄せて

牛田 清博 (地域と協同の研究センター常任理事・コープあいち執行役員)

熊本地震により犠牲となられた方々のご冥福と、被災されたみなさまへ心よりお見舞い申し上げます。

再び、私たちの想像を超える自然災害が起こってしまいました。14日に発生した地震から一週間経過する現時点でも収まっていません。熊本県内では約10万人も避難し、避難所の食料が不足していると現地からも連絡がありました。不安な中で過ごさざるを得ない住民のみなさんの生活をまず一安心して頂けるよう、全国の生協組合員とともに支援をしていきたいと思えます。

さて、現在コープあいち組合員が主体になり前進座「怒る富士」の上演運動をしていますので紹介をさせていただきます。ICA東京大会を記念しての92年「怒る富士」全国公演をご存じの方も多と思います。今回は東北の生協から復興支援5年目の呼びかけにこたえての再度の上演となりました。前回の公演から24年が経過しています。当時実行委員会に関わった組合員は僅かですが、初めて取組む組合員とともに運動が広がっています。特に東日本大震災支援のグループのみなさんが共感し運動に加わっています。

内容は富士山の宝永の大噴火(1707年)で大量の灰が降り、被害のあった59の村からの直訴を受けて、幕府は諸藩から復興資金を集めたにも関わらず半分も使わず、山麓の村々の復旧をするどころか、亡所にするという裁定でした。幕府のそのような棄民政策に喘ぐ農民たちと彼らを守ろうとその復興に命を賭した関東郡代・伊奈半左衛門の真実の物語です。

今回の上演運動を通じて面白い事が分かりました。主人公の伊奈家(関東郡代)は愛知県西尾市の小島城主でした。三河一向一揆に味方して敗れ、小島城を退いたのち、長篠の戦で手柄を立て、家康の子信康に仕えましたが、その信康が信長により自決させられ、非情な仕打ちに堪えぬ人(代々の家禄を失い、戸籍から移ること)となり堺に身を寄せていたところ、本能寺の変が起こり同じく堺にいた家康の「伊賀越え」を助け三河に戻り家康の家来となり、かねてからの土木の才能を生かして関東平野に幕府をつくることを家康に進言。利根川の流れを千葉県へ変え、関東平野をつくりました。その為関東郡代という要職を伊奈家が担うことになりました。今回の主人公は5代目半左衛門ですが、代々土木、治水等を通じて農民の暮らしを把握していたと思われま。

主役の半左衛門役嵐圭史さんも今回が最後の舞台として、何度も組合員の交流会などへ足を運んで頂いています。半左衛門の故郷である愛知県では、6月3日豊橋、4日新城、6日・7日金山、8日安城で公演がありますので、ぜひご家族、お友達とお越しください(チケットは全席指定席で、S/A/B3種類です。地域と協同の研究センターでも取り扱って頂いていますので、お電話頂ければ用意します)。

CONTENTS

巻頭エッセイ	
熊本・東北・富士山に寄せて	1
韓国COOP生協に学ぶ	
～組合員が楽しく活動する参加の場づくり～	2
地域作りの活動から生まれた「和良おこし公民館」の活動紹介	3
とうかい食農健サポートクラブ学習会報告	
伝統野菜ってなあに?	4
情報クリップ	5~7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 4月の活動

2日(土) とうかい食農健サポートクラブ「伝統野菜ってなあに?」学習会
6日(水) 尾張地域懇談会「わいわい子供食堂」見学
7日(木) 暮らしと生産をつなぐものづくり準備会 ／NEWS編集委員会座談会
8日(金) 研究フォーラム(パネル)食と農世話人会 ／尾張地域懇談会「ポトスの部屋」見学
13日(水) 研究フォーラム環境世話人会
14日(木) 常任理事会 寄付講義開講
15日(金) 研究フォーラム職員の仕事を考える
18日(月) 尾張地域懇談会世話人会
19日(火) 岐阜地域懇談会世話人会 ／研究フォーラム地域福祉を支える市民協同世話人会
23日(土) 理事会 26日(火) NEWS発送

# 韓国iCOOP生協に学ぶ ～組合員が楽しく活動する参加の場づくり～

文責：事務局



アジア・ボランティア・ネットワーク東海とコープあいち、地域と協同の研究センターの共同開催で「アジアの平和、食と文化フェア」を計画しています。その企画へつながるように、プレ企画第3弾として、金亨美（キム・ヒョンミ）氏による「韓国iCOOP生協に学ぶ」講演会を2月12日（金）に、金山の名古屋都市センター14階特別会議室で行いました。「組合員が楽しく活動する参加の場づくり」をテーマに、韓国iCOOP生協のことやその仕組みについて学びました。

韓国iCOOP生協の基本的な考え方は、生協は組合員のためにあります。（これは有名なリンカーンの言葉から引用しています）その仕組みは、組合員が出資金とは別に月ごとに会費を払いその会費が生協の運営費になっています。生協の活動運営は、事業とは切り離して考えられています。運営費は、運営にかかる費用を組合員一人当たりで割った金額で設定されています（月に1000～1500円ぐらい）。

韓国iCOOP生協の組合員は、現在23万8千人です（1998年に設立）。85の単協があり、平均すると1単協は4千人ぐらいの小さな生協です。小さな組織なのでお互いの顔が見える関係で、理事が運営を担っています（運営には、職員が関わっていません）。組合員は比較的若く、とても前向きな方が多いです。これまで組合員活動に1回でも参加した方は、統計では75%います。各単協は独立していて上下関係はなく、4つの組織に分野ごとにつながっています。※4つの組織とは、事業体・活動体・農業を守る会・承認センターです。

2004年ごろから、ワールドカフェの手法を取り入れたオープンテーブル方式を会議に取り入れました。組合員が元気に会議の中に参加できるようになりました。

## 質疑応答・アンケート

### <質疑応答>

- ・ こちらの生協で言う非組合員は利用ができますか？  
⇒基本禁止です。自分たちは、緩和の方向で考えています。
- ・ 各単協はどのように分かれていますか？  
⇒概ね行政区で分かれています。

### <アンケート>

- ・ 若い力を感じました。これから先10年が楽しみです。
- ・ 生協に加入している意識が強く、誇りに思っていることが感じられました。
- ・ 食品の安全性・家族のためにと、どこの国でも変わらないと思いました。理事研修は興味深かったです。金さんのような方が、どのように選ばれて、どこが政策立案しているのかシステムをもっと知りたかったです。
- ・ 活動運営資金が、別にあることや事業と組合員組織が別なのには驚きました。
- ・ 組織が、こちらとは違いがあるけど、まだまだ知りたいことも多くあります。
- ・ 組合員が積極的に参加しやすい仕組みになっていると感じました。
- ・ 密度の高い活動と商品に対して関心が高く、見習わなくてはと思った。
- ・ 韓国iCOOP生協の組合員の前向きな参加と活動に、学ぶことが多くあると感じました。
- ・ 現在の生協では、「組合員のために」ということが必要以上に強調された結果、理事会も職員も組合員のメリットをどう提供するかに追われてしまうように思います。



講演会の様子です



iCOOP生協の商品の説明



iCOOP生協の商品を展示・試食をしました

## 地域作りの活動から生まれた「和良おこし公民館」の活動紹介

岐阜地域懇談会世話人会では、以前からこの地域（岐阜県郡上市和良町）で実施されてきた「T型集落点検活動」に注目し、地域を訪問したり、地域全体で開催された「点検活動」の発表会などにも参加してきました。その町づくりの活発な活動なども紹介してきました。

(文責：事務局 熊崎辰広)

### ◆和良（わら）おこし公民館の活動

今回は、その活動の中から生まれたユニークな「和良おこし公民館」を訪問し、担当の「地域おこし協力隊」の加藤さんを中心にお話を聞きました。出張所の職員の大野さん、和良おこし協議会の会長池戸さんも同席され、お話を聞くことができました。



2014年5月古民家を改造し、だれでも気楽に集うことのできる施設として発足しました。私設の公民館として、特に地区外からの利用も可能です。ここには加藤さんが常駐し、さまざまな活動やイベントが実施されてきました。牛の形の薪ストーブが炊かれ、お酒ののめるカウンターバーとからっぽとした音楽ライブも可能なスタジオコーナーもあります。

お風呂やキッチンも設置され、宿泊も可能になっています。囲炉裏スペース12畳、薪ストーブスペース12畳、オープンスペース6畳×2で、この空間はすべてフルオープンです。

この施設を利用した様々な活動があります。

高齢者の見守りサロンとしては、下洞自治会が「まめな会」の活動をしています。

郡上の女性の計画的偶発性(?)の場として、子育てしながら、自分らしく生きているママ達がいきいきと活動できるイベント、「おひさまカフェ」(子育て支援プロジェクト)や、「ママのためのなりたい自分を目指す最初の一步セミナー」が開催されています。

また和良小学校PTAによる風鈴作り、朴葉すし作り、紙製鼻笛を作るクラフト体験など親子で楽しめるイベントなどにも利用されています。ちなみに加藤さん自身は、鼻笛の一流奏者で、木工細工の鼻笛を作っていて、買うこともできます。

### ◆移住相談

加藤さんの仕事としてはこの公民館の管理以外に、移住相談の活動があります。この数年間で5組、主に20代、30代を中心に移住を受け付けることができたそうです。和良の中でも働ける工場などもあるということです。利用される空き家は基本的に賃貸で、改装費用として30万円まで補助できる制度が利用できます。

### ◆田んぼオーナー制度

ただし、米づくりは大変厳しく、一つの地区(和良には15ほどの地区、むかしの自然村があります)全体で稲作をやめてしまった、という状況もあるそうです。そんな中で、「田んぼオーナー制度」が6年目に入りました。年間2万円の料金の、一俵のお米と年間いくつかのイベントへの参加ができるもので、特に都市地域からの参加では、米づくりの大切さを学ぶ機会となっています。リピーターも多いようです。

### ◆和良鮎

また和良川で獲れる「和良鮎」は全国の品評会で優勝するなどで、この和良鮎のブランド化がすすめられ、名古屋市などの老舗料亭などで利用されているとのことです。その結果として、鮎一匹1500円という高額で取引されています。

岐阜地域懇談会では、一度世話人会をこの公民館で開催したいと検討しています。



左側の方が「和良おこし協議会」の池戸さん、右側が「地域おこし協力員」の加藤さん。

## とうかい食農健サポートクラブ 学習会 報告 伝統野菜ってなあに？ ～現代の食がもつ問題～

文責：伊藤小友美

とうかい食農健サポートクラブ（東海地域で、消費者や農業・食品産業・教育・医療・行政機関等、幅広い分野の関係者によるネットワークを構築し、農業体験、食農教育等の普及を期すことを目的としている組織。2000年設立。地域と協同の研究センターが事務局を担っています。）では、今年度の1年を通して「伝統野菜」について学びます。その第一弾として「伝統野菜ってなあに？」と題した学習会を4月2日、50名の参加で開催しました。講師は、あいちの在来種保存会代表世話人・シニア野菜ソムリエの高木幹夫さんです。そのお話の一部をご紹介します。

### ◆ 幼少のころから種採り ◆

私は、伝統野菜が認定される前から、種を採り始めました。昭和49年から50年のころです。愛知県には、知多1号、2号、3号というタマネギがありました。今は3号だけが残っています。母本（ぼほん：種子繁殖のため、種の採取をする植物体のこと。）の選抜作業を、先輩に教えてもらいながらしました。1反、1千球から100球の玉を選びます。いろんな先生、伝統野菜を守ってくれている人たちがいて、「あいち在来種保存会」を設立しました。

### ◆ 伝統野菜ってなあに？ ◆

さて、伝統野菜ってどんな野菜でしようか。定義は難しいです。京都の伝統野菜もあります。加賀もあります。一般的に、古くから地元で絶えることなく命をつないできた野菜です。その産地の人や風土、食文化を育ててきた野菜。季節限定、旬を感じる野菜。今の野菜にはない強い香りやえぐみ、苦みなど多様な味が備わり、繊細な味覚を育ててきた野菜です。和食が世界遺産に認定されたように、日本人の繊細な味覚を育ててきたのは伝統野菜だとも言えます。流通には適さない野菜が多いのも特徴です。

たとえば、京の伝統野菜は37品目あります。明治以前から、京都府内全域で生産されていたもので、たけのこは含みますが、キノコ、シダ類は除きます。すでに絶滅した品種も伝統野菜と呼びます。

あいちの伝統野菜は、すべて名が売れてブランド力が大きいものです。定義は、今から50年前には栽培されていたもので、地名、人名がついているものなど、愛知県に由来する名前がついているもので、種や苗が今でも手には入るものです。「信長・秀吉・家康」の三英傑のマークは、使うのに許可が要ります。

その中に、八事五寸ニンジン、木之山（このやま）五寸ニンジン、碧南鮮紅五寸ニンジンがありますが、木之山五寸ニンジンの親が八事五寸ニンジンです。物語があって、馬込三寸ニンジンが八事五寸の親です。

一般のニンジン、F1との違いは芯がないことで、すぐに煮えます。そしてたいへんニンジンくさいのが特徴です。

### ◆ 愛知大晩生（あいちだいばんせい）キャベツ ◆

実は私は、愛知大晩生キャベツを初めてつくり、この春初めて食べました。昨年7月末に種を播いて、収穫は9ヶ月から10ヶ月後です。畑のローテーションが崩れるからつくる人がいないのが現状です。

庄内川は、3年か4年に一度、大雨で、上流から養分をもった腐葉土が流されてきます。自然に土壌処理をされて、肥料もやらなくてよくなります。まさに自然との共生です。昔は40戸の栽培農家がありましたが、今は7戸しかありません。種をもらって、大府と南知多と碧南の3カ所にかけてつくっています。もう消えてしまいそうなキャベツです。流通にのらないのですが、大阪の焼きそば屋さんに重宝がられています。春系のキャベツは柔らかくて、葉の分厚いものは見あたりません。でかいから、刻みが早い。大阪では人



愛知大晩生キャベツ  
(右は500mlのペットボトル)

気があります。

### ◆ 国産野菜も種は外国産 ◆

在来種とは、ある地方で長年栽培され、その地域の風土に適応した品種です。何世代もかけて選抜淘汰が行われており、伝統野菜・地方野菜・地場野菜と呼ばれます。

それに対して、F1種は、雑種の一代目です。スーパーに出回っている野菜のほとんどがこれです。

国産野菜と言っても、種のほとんどが外国産です。大手の種苗会社に聞くと、8～9割の種が外国産だそうです。産地はトルコ、デンマーク、アメリカ、アルゼンチン、ニュージーランド等さまざまで、日本産を探す方が難しいのが現状です。F1の種は毎年購入しないとダメです。

今の食生活、これでいいのでしょうか。見た目重視で、日本の伝統野菜が消えていきそうです。私たちは、「種から国産」の取り組みをしています。国産の種から育った野菜には「種から国産」のシールを貼っています。そういう種を守ろうという動きがあり、伝統野菜の展示をしているところもあります。

今後、この会がすすむことを期待しています。

# 情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価/頒価
<p>▶いつでもどこでも全力投球 生協男子・女子スペシャル</p> <hr/> <p><b>NAVI</b> 2016. 4 769</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 いつでもどこでも全力投球 生協男子・女子スペシャル！</b>                      &lt;コープのある風景&gt; コープやまぐち                      &lt;元気な店舗の取り組みを学ぶ&gt; エフコープ 花畑店                      &lt;宅配・現場レポート&gt; ならコープ                      &lt;生協大好きママコプ山さんの 教えて！CO・OP商品&gt; CO・OPたまねぎドレッシング                      &lt;☆突撃☆あなたの町の組合員活動&gt; いばらきコープ                      &lt;想いをかたちにコープ商品&gt; ラブコープ商品 工場・産地交流会                      &lt;新連載 エッセイ&gt; 東京⇄パース 小島慶子の8000キロ通信 空からひとりごと                      &lt;新連載 日本全国ふだんのくらしを支えたい&gt; 生協コープかごしま                      &lt;明日のくらしささえあうCO・OP共済&gt; コープえひめ                      &lt;この人に聴きたい&gt;                      作家・明治学院大学教授 高橋源一郎さん                      &lt;ほっとNAVI&gt; パルシステム連合会 ユーコープ</p>	<p>2016年 4月 A4版 35頁 定価 360円</p>
<p>▶電力の小売り自由化とは何か？</p> <hr/> <p><b>社会運動</b> 2016. 4 422</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p><b>特集 ① 市民が政治を変える</b>                      市民の力で野党統一候補を実現しよう！ 大学院修士課程 奥田愛基                      熊本で野党統一候補が決定！ 若者旋風は吹くか フリージャーナリスト 横田一</p> <p><b>特集 ② 電力の小売自由化とは何か？</b>                      私たちは何を選ぶべきか 編集部                      脱原発の視点から考える イージーパワー(株)代表取締役 竹村英明</p> <p><b>特集 ③ 電力自由化、生活クラブの取り組み</b>                      脱原発とCO2削減に向けた電気の共同購入 (株)生活クラブエナジー 代表取締役 半澤彰浩                      電力会社を切り替えるための基礎知識 編集部</p> <p><b>特集 ④ 全国各地の市民電力</b>                      再生可能エネルギーでまちづくり 宝塚すみれ発電代表取締役 井上保子                      地域からのエネルギーシフト 世田谷みんなのエネルギー理事長 浅輪剛博                      北海道からの挑戦、自然エネルギー社会への転換                      北海道グリーンファンド理事長 鈴木亨                      動き出した地域社会のうねりと「ご当地エネルギー」                      全国ご当地エネルギー協会 渡辺福太郎                      再生可能エネルギーの電力会社を選ぼう！                      パワーシフトキャンペーン 吉田明子</p> <p><b>脱原発、CO2削減に向かうヨーロッパ</b>                      電力の地産地消・産直を実現しよう -EUの現状とドイツの実践-                      市民エネルギーとっとり代表 手塚智子                      気候変動枠組条約第21回締結国会議 (COP21)                      歴史的な「パリ協定」採択と今後の課題                      気候ネットワーク代表 浅岡美恵                      おしどりマコの知りがりの日々 レッツ想定外！ 第2回                      知りがりのドイツ人 芸人・記者 おしどりマコ</p>	<p>2016年 4月 B5版 126頁 定価700円</p>

<p>▶JA全国大会決議の実践に向けて</p> <hr/> <p><b>月刊 J A</b></p> <p>2016. 4 734</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p><b>特集 JA全国大会決議の実践に向けて ～改正農協法の施行を踏まえて農業担い手への経営者教育の意義と農業協同組合農協法改正のポイントと第27回JA全国大会決議の実践に向けて</b></p> <p>JA全中JA改革推進部 JA全中総務企画部</p> <p><b>これからの中央会の果たす役割 創造的自己改革に向けた取り組み事例</b></p> <p>①JA加美よつば ②JA中野市 ③JAたまな</p> <p>オピニオンリーダーに聞く ・きずな春秋 —協同のこころ— 山に植える協同心（前編） ・協同組合の広場 日本生協連 JF全漁連 全森連 全国中央会</p> <p><b>JAトップインタビュー</b> 福祉・直売で地域に貢献を 大竹雅彦（兵庫県JA兵庫南 代表理事組合長） ・展望 JAの進むべき道 自己改革の実践初年度を迎えて 奥野長衛（JA全中会長） ・海外だより 連載 59 [D.C 通信] 米国連邦最高裁判所の判事交代をめぐる動き 中村岳史</p>	<p>2016年 4月 A4版 50頁</p> <p>年間購読料 4,800円 (送料別)</p>
<p>▶組合員のくらしが見えているのか</p> <hr/> <p><b>生活協同組合研究</b></p> <p>2016. 4 483</p> <p>(財) 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 他人ごととは言えないフード・セキュリティ 生源寺眞一</p> <p>▶<b>特集 組合員のくらしが見えているのか</b> —2015年度全国生協組合員意識調査から—</p> <p>調査結果から見える生協の現状と課題 久保典子 日本の人口変動と組合員のくらし —中流階層崩壊時代の生活基盤に注視— 組合員のインターネット利用 近本聡子 食品の安全性はブランドとなりえるか 三谷和央 生協の購買額が高いのはどのような人か？ 宮崎達郎 組合員のCOOP共済に対する認知度と印象 中村由香 生協利用の多い組合員の分析を深めて欲しい 小塚和行 コラム1 若林靖永 組合員意識調査から見えてくる生協事業の課題 白鳥和生 コラム2 コープさっぽろの競争環境下におけるマーケティング戦略について 米田敬太郎</p> <p>■時々再録 脱・被災地企業を目指す気仙沼ニッティング 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで（2015・11） 高野真吾・菊谷宗徳</p> <p>■新刊紹介 槇文彦著 聞き手・松隈洋 『建築から都市を、都市から建築を考える』 高橋直彦</p>	<p>2016年 4月 80頁 B5版</p>
<p>▶地域包括ケアの現状と課題</p> <hr/> <p><b>文化連情報</b></p> <p>2016. 4 457</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー（26）ベジマルファクトリーで利益と雇用 片岡眞郁 厳しさを増す環境の中、協同の力で新たな展望を切り拓こう 山田尚之 新事業年度開始に当たって 田幸健司 院長リレーインタビュー（287） リハビリを主体とした地域医療への貢献を模索中 二木立 二木学長の医療時評（136） 地域包括ケアシステムから「全世代・全対象型地域包括支援」へ 第1回日本福祉大学地域包括ケア支援研究会公開セミナー 0～100歳の地域包括ケア 小磯明 <b>地域包括ケアの現状と課題</b> 石川 満 地域医療構想、診療報酬改定を踏まえた戦略をテーマに 第19回厚生連医療経営を考える研究会 東公敏 権利はたたかう者の手にある 朝日健二さんと朝日訴訟・生存権裁判 井上英夫 農村医学は世直し運動 私の歩んできた道（13） 財団設立に必死に立ち向かう 小山和作 医食農同源 医療の現場を食から支える（3） 病院とJAを食で結ぶ……地産地消 石川知子</p>	<p>2016年 4月 B5版 88頁</p> <p>文化連情報 編集部 03-3370 -2529 *注</p>

病院建築と環境 (9) 快適とは何ぞや 福島原発事故被災と健康の将来 (8) 最終章：原発といのち (1) 地域産業との連携による再生可能エネルギーの新展開 (9) 電力の小売り自由化の開始 患者と医療従事者を守る院内感染予防対策 平成27年度厚生連院内感染予防対策研修会に参加して 数年後にもまた受講したい 「正しい感染対策」の模範になりたい アウトブレイクを防ぐ 院内感染における細菌検査室の取り組み 職種を超えた世界レベルの知識を得た 岡田玲一郎の間歇言 (136) DPCの変化と日本版ACOについて (I) デンマーク&世界の地域居住 (83) オランダの革新④ 社会住宅と地域ケア 新連載 熱帯の自然誌 (1) ボルネオと私 コペンハーゲン・アマー地域の認知症の在宅ケア (1) アマー地域の組織機構 野の風 食が作る国の形 線路は続く (97) 異国の香り漂う 佐世保線 最近みた映画 これが私の人生設計	野部達夫 安藤 満 大平佳男 赤井理明 落合英子 田原尚之 西岡まゆみ 岡田玲一郎 松岡洋子 安間繁樹 小磯明 沓澤優子 西出健史 菅原育子
---	---

<p>▶障がいのある子どもが地域で育つ放課後等デイサービスをめざして</p> <p>協同の発見 2016.3 280 協同総合研究所</p>	<p>■巻頭言 放課後等デイサービス・障がい児の時間・空間の結節点にあるもの 橋本吉広（協同総合研究所 常任理事）</p> <p>■特集 障がいの子どもが地域で育つ放課後等デイサービスを目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての支援者が“出会った人を守る”～「かかりつけの事業所」になろう～ 藤本真二（NPO法人 ねがいのいえ理事長）</li> <li>○ワーカーズコープの放課後等デイサービス事業の現在の取り組みについて 中山竜一（労協センター事業団 事業推進本部 子ども・放課後等デイプロジェクト事務局）</li> <li>○【座談会】ワーカーズコープの放課後等デイサービスは何を目指すのか？ 実践者 田中紀代子（労協センター事業団 草津地域福祉事業所 みんなの家所長／会員） 山下弘美（労協センター事業団 第2もちの木） 斎藤香織（労協センター事業団 矢板長井地域福祉事業所 放課後デイサービスりんごの木 コーディネーター 馬場幹夫（労協センター事業団 子ども・放課後等デイサービス 担当役員／会員） 青柳栄子（労協センター事業団 東京北部事業本部 事務局長 / 会員）</li> <li>○私たちが仕事おこしをする理由 熊谷元（労協センター事業団 滝沢地域福祉事業所 所長）</li> <li>○「もちの木」立ち上げから5年。立ち上げにかかわった保護者からの聞き取り ～学校卒業後の進路の悩みと、生まれ育った地域で暮らすことの豊かさ～ 岩城由紀子（協同総合研究所）</li> </ul> <p>■協同の広場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○協同組合こそ人類の歴史の正当な継承者 吉原毅（城南信用金庫 相談役）</li> <li>○インターンシップ in 協同組合 ～「協同」を核にした学びの先にあるもの、社会的課題を解決できるしくみと 事業を伝えたい～ 志波早苗（生活サポート協同組合・東京 / 会員）</li> <li>○インターンシップ in 協同組合 座談会 ～大学生の学びを軸とした、協同組合観と労働観に触れて考えること～ 相良孝雄（協同総合研究所 事務局長）</li> </ul> <p>■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介（第3回） 組織の歴史・歩みからの学び ー市民主体の仕事おこしの歴史からー 佐藤友彦（北海道労働者協同組合 事務局長 / 会員）</p>	<p>2016年 3月 B5版 64頁 定価1300円</p>
--	--	---

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

タイ・チェンマイのおふくろさん・トンディさんに学ぶ

# みんなで創るよりよい地域

日時：2016年5月15日（日） 13:45～16:00（開場 13:30）  
 場所：豊橋市民文化会館 リハーサル室 愛知県豊橋市向山大池町20-1 (0532) 61-5111  
 会費：無料

トンディさんについて

タイ・チェンマイ郊外のセラピー村の農民の主婦。小学校4年課程卒業。独学で大学の農業課程卒。彼女は現金収入を得るために、換金果実のラムヤイ栽培などを村で始めました。

北タイは貧しい地域で、多くの女性たちが都会に売られていきます。現金収入の道を得ることで、彼女の村からは、一人の女性も売られなくなりました。山岳少数民族の少女や、ビルマの少女たちが売られていくのを救うため、トンディさんは自宅をシェルターとして解放しました。村々を回って、子どもを売らないようにと啓蒙活動を行う中で、エージェントに頭に銃を突きつけたこともあるそうです。（そのエージェントの実態は？当日会場で）

売春の影響で、タイでエイズが広がり、多くの子どもたちが孤児になりました。そんな子どもたちの里親プロジェクトもはじめ、4人の少女を育てました。科の場は組織をつくらなくて、個人で活動しています。

彼女の活動は、周囲の村にも広がり、セラピー周辺の村で、90人の孤児が里親とともに暮らしています。今は村で有機無農薬栽培の普及に尽力しています。

●主催・お問い合わせ；S.T.A. なみだの分かち合いアジア・リゅうチャク

Tel/080-1581-1980 mail/sta-office@yahoo.co.jp

5月14日 ウィル愛知 10:00～14:00 5月17日 岡崎リブラ 10:00～12:00

共催：名古屋生活クラブ[うぶやの会]でも開催されます。

書籍案内

シリーズ田園回帰

**交響する都市と農山村 対流型社会が生まれる**

著者：沼尾波子 著 定価2,376円（税込）発行：2016/03

出版：農山漁村文化協会（農文協）判型/頁数 A5 236 ページ

解説

都市と農山村それぞれの魅力を知り、育むことから「豊か」な暮らしが育まれる。これからの国の形として、都市と農山村の間に双方向型の関係をつくる必要がある。都市化が進むなかで忘れ去られようとしている農山村の論理を都市に取り戻すことが、都市における暮らしの豊かさにつながる。反対に、農山村もまた、都市の論理を受け止め、受け入れることで、これからの可能性が開かれる。都市と農山村の間を軽やかに行き来する人たちの経験と語りから、そのつながりの大切さを描くとともに、これからの地域づくりの処方箋を提示する。

農山漁村文化協会ホームページより



**研究センター 5月の活動予定**

- 6日（金）総会議案書発送
- 9日（月）三重地域懇談会 立梅用水訪問
- 10日（火）国際協同組合デー記念行事相談会
- 11日（水）事務局会議
- 12日（木）三河地域懇談会実行委員会
- 14日（土）フォーラム環境 電力自由化学習会
- 16日（月）くらしを語り合う会/NEWS編集委員会
- 20日（金）常任理事会
- 23日（月）研究フォーラム環境世話人会 25日（水）NEWS発送
- 28日（土）研究センター第16回通常総会/記念シンポジウム

2016年4月25日発行（毎月25日発行）

定価200円

（税・送料込み。年会費には購読料が含まれています）

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>